

YAMAKADO NEWSLETTER

NO.88

2007/03/31

山門水源の森を次の
世代に引き継ぐ会

2006年度活動日数200日を超える！！

間伐材を利用した椎茸菌の植え込み作業(07/03/28)

本会が発足した 2001 年から年々保全活動をはじめとする諸活動の日数が増えてきたが、6 年目に当たる 2006 年度は実に 200 日を超える活動日数となった。前年度までに実施した保全活動の成果が目に見えるようになり、活動にも拍車がかかった。特に今年度は暖冬ということもあり、湿原・林床ともに下草刈りや間伐作業が予想以上に進行した。これらの保全活動の成果が、今春以降どのように現れるかが楽しみなところである。

他方外部での講習会・講演・展示等も多くをこなし多忙極まりない年となった。活動費を得るためのガイド・物品販売等も会員の協力によって過去最高の実績となった。このような多角的な活動ができた裏には「おうみ NPO 活動基金」や「淡づくり活動費助成」の助成が得られたからである。助成していただいた関係機関に紙面を借りて改めて感謝の意を表したい。と同時に 2007 年度も新たな気持ちで保全事業に取り組み、一步でも「次の世代へ」引き継げるような実のあるものにしてゆきたいと総会でも確認したところである。



「四季の森」間伐前の様子(07/03/01)



「四季の森」間伐後の様子(07/03/01)

のほくろしく変化した3月の森

1月・2月は「暖冬」という言葉がぴったりだったが、3月に入ると不安定な天気が続いた。そんな天気を反映してか生物界もとまどい気味であった。



作業中に見つかった冬眠中のモリアオガエル(07/03/02)



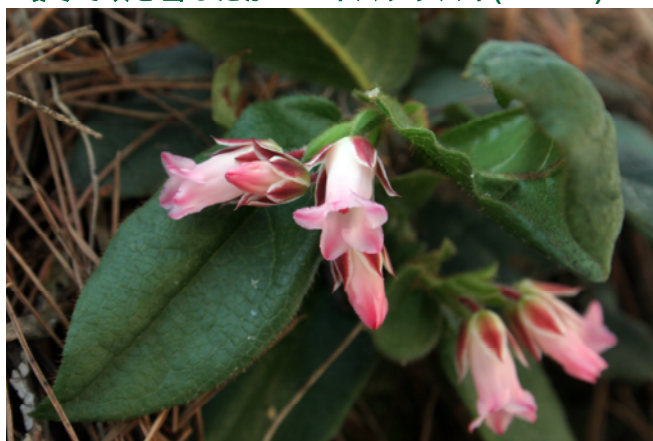
弥生の降雪の南部湿原(07/03/08)



暖冬で咲き出したが・ユキバツバキ(07/03/08)



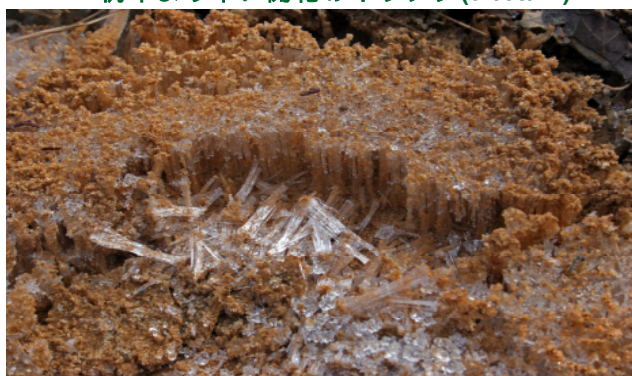
新雪と凍結した南部湿原(07/03/13)



例年より早い開花のイワナシ(07/03/17)



放射冷却で凍結した池塘の南部湿原(07/03/21)



観察コースの霜柱 (07/03/21)

3月下旬になっても降雪が繰り返し、例年にない季節変化で生物対応を注視する必要性を感じている。「地球温暖化」の課程では、今年のような天気変化を繰り返しつつ長期的には温暖化の方向に向かうのかも知れない。こうした時期の生物界の様子は詳細に記録しておき次世代の考察の参考になるような資料を残しておきたいものである。

